

平成 19 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

白川 朗、竹林真治

Adaptability test for a variety of forage crops and grasses.

(2007. 4～2008. 3)

Akira SHIRAKAWA Shinji TAKEBAYASHI

要 約

牧草、飼料作物育種指定試験地において育成されたイタリアンライグラス、トールフェスク、ホールクroppサイレージ用ソルガムの新系統について、香川県での栽培、利用環境における適応性を検討した。

イタリアンライグラスは、山系 33 号と友系 30 号の検定をおこなった。山系 33 号の発芽及び定着時草勢は良好で、発芽直後の苗立枯れやいもち病の発生は観られなかった。10月上旬の標準播き及び11月中旬の遅播きとも生草・乾物収量ともに多く、特に遅播きでの収量性の高さが示された。友系 30 号の発芽及び定着時草勢は良好であった。耐倒伏性は供試品種中で最も高く、生草・乾物収量ともに最も多収であった。

トールフェスクは、九州 14・15 号の検定をおこなった。両方とも出穂始めが標準品種よりも10日程度早かった。14号は生草・乾物収量とも多く標準品種と同程度で、15号は1・2番草で少なかったことから全体でもかなり少なかった。

ホールクroppサイレージ用ソルガムでは、東山交 31 号、33 号、34 号の検定をおこなった。ソルゴー型の東山交 33 号は発芽及び初期生育は良好であった。生草収量は最も多かったが乾物率が最低であった。34号も発芽及び初期生育は良好であった。草丈が大きいにも関わらず耐倒伏性が高かった。乾物率が高く乾物収量は標準品種を上回った。スーダン型の東山交 31 号は出穂は遅く標準品種並みであった。草丈は最も小さくて、耐倒伏性は高かった。生草・乾物収量はともに最も多かった。

I イタリアンライグラス (山系 33 号)

目 的

山口県農林総合技術センターで育成された、イタリアンライグラスの系統について、当地域における適応性を検討した。

試 験 方 法

1. 供試品種系統名

山系 33 号、◎ワセユタカ、○ナガハヒカリ、○タチマサリ

◎は標準品種、○は比較品種

2. 試験区面積・区制 1区面積 6㎡・ 4区制 (4反復)

3. 栽培概要

- 1) 播種期 標準播き試験区：2006年10月4日
遅播き試験区：2006年11月13日
- 2) 播種法 条播 (畦間30cm 播幅10cm)
- 3) 播種量 山系33号・ナガハヒカリ：250g/a
ワセユタカ・タチマサリ：150g/a
- 4) 施肥量(kg/a)

基肥	N	0.84	P ₂ O ₅	1.62	K ₂ O	0.72
追肥	N	0.64	P ₂ O ₅	—	K ₂ O	0.64 (各刈取毎)

5) 刈取時期

	年内刈	1番草	2番草
標準播き試験区	—	4月19日	5月11日
遅播き試験区	—	4月24日	5月18日

結 果

1. 気象概要

試験期間中の平均気温は2007年3月中旬に平年値を下回った以外、概ね平年を上回って推移した。特に2006年10月以降2007年2月にかけて平年値を2℃以上上回って推移することが多かった。降水量は2006年10月以降平年を大きく下回り、少雨傾向が2007年6月にかけて継続している。日照時間は、ほぼ平年並みに推移したが、2007年1月から3月にかけては、平年をかなり上回った。

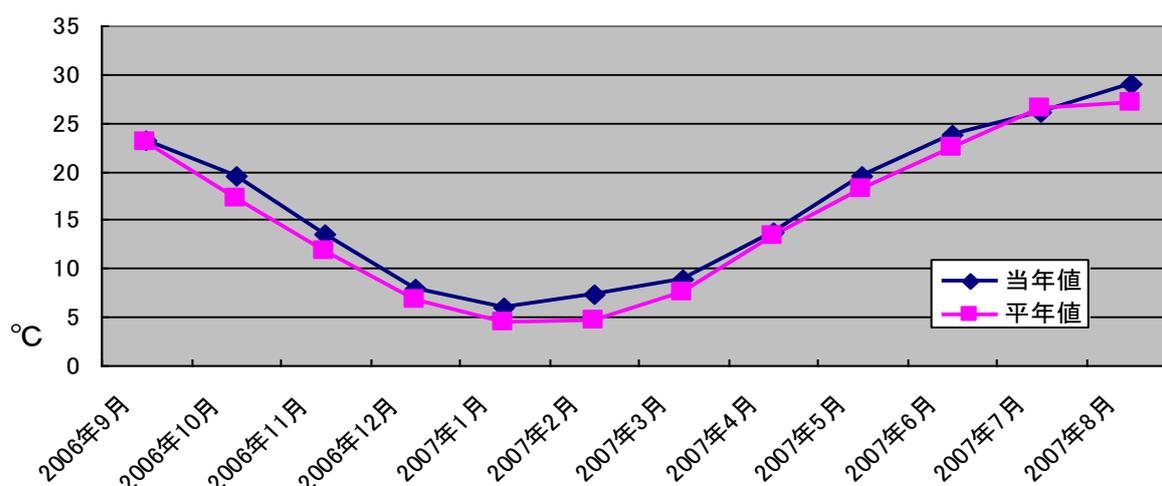


図-1 月平均気温の推移

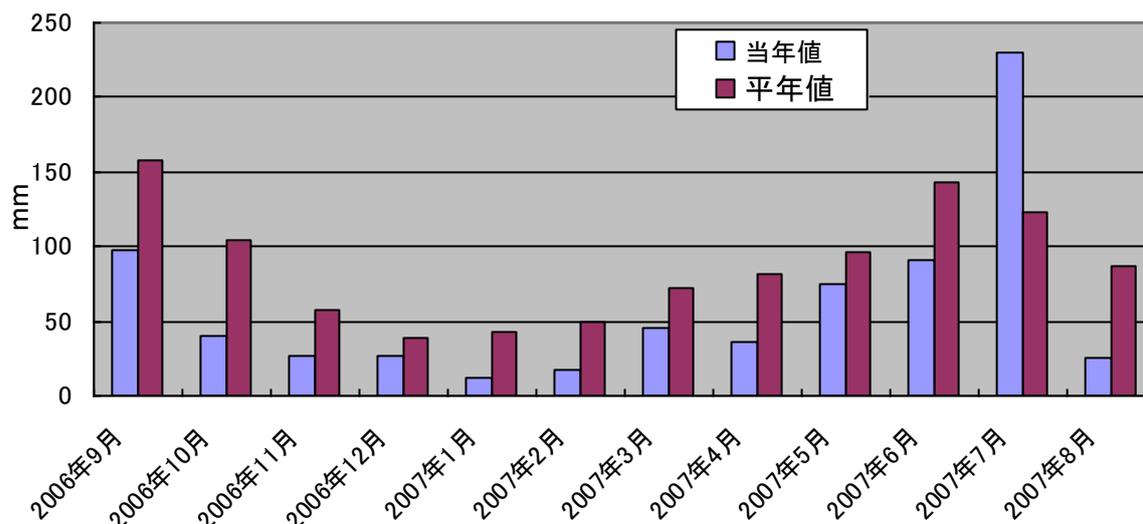


図-2 月別降水量の推移

2. 生育概要

(1) 標準播き試験区

発芽及び定着時草勢は概ね良好であった。発芽直後の苗立枯れ症及びいもち病は発生しなかった。冠さび病の発生も無かった。虫害は全体に発生しなかった。

草丈は、1 番草ではタチマサリが最も大きく、次いで山系 3 3 号、2 番草ではワセユタカが最も大きく、次いで山系 3 3 号が大きかった。倒伏は 1 番草の全ての供試品種で発生し、2 番草ではワセユタカにのみ発生した。出穂期はタチマサリが最も早く、次いでワセユタカと山系 3 3 号であった。ナガハヒカリの出穂は最も遅かった。

(2) 遅播き試験区

発芽及び定着時草勢はワセユタカがやや劣った他は概ね良好であった。定着時草勢は12月以降の低温の影響で特にワセユタカとタチマサリで生育の遅れが見られた。発芽直後の苗立枯れ症、いもち病の発生は無く、冠さび病の発生もなかった。虫害はタチマサリの1番草にムギダニが僅かに発生した。

草丈は1番草ではタチマサリが最も大きく、次いで山系33号、2番草ではナガハヒカリとワセユタカが大きかった。倒伏は、1番草にかなり発生した。特にワセユタカが甚だしかった。2番草ではワセユタカだけ倒伏が発生した。出穂はタチマサリとワセユタカが最も早く、ナガハヒカリは最も遅かった。

3. 収量特性

(1) 標準播き試験区

生草収量は1、2番草ともナガハヒカリが最も多く、次いで山系33号であった。乾物率はタチマサリとワセユタカが高かった。乾物収量は生草収量の多かったナガハヒカリが最も多く、次いでタチマサリが多かった。

(2) 遅播き試験区

生草収量は1、2番草ともナガハヒカリが最も多かった。次いで山系33号の順であった。

乾物率はワセユタカとタチマサリが高かった。乾物収量は全体でタチマサリが最も多く、

次いで山系 33 号が多かった。

育成系統の概評

山系 33 号：標準播き試験区

発芽及び定着時草勢は良好であった。苗立枯れ症やいもち病、冠さび病の発生は無かった。虫害の発生も無かった。

草丈は 1 番草ではタチマサリに次いで、2 番草ではワセユタカに次いで大きかった。倒伏は 1 番草ではタチマサリよりも多く発生した。2 番草では発生しなかった。出穂時期はワセユタカと同時期で、出穂程度も同様であった。

生草収量は 1、2 番草ともナガハヒカリと同程度で非常に多く、対標比 109% であった。乾物率は供試品種の中で最も低く 16.8% であった。乾物収量は、乾物率が低かったことからワセユタカと同程度であった。

：遅播き試験区

発芽及び定着時草勢は良好であった。苗立枯れ症やいもち病、冠さび病の発生は無かった。虫害の発生も無かった。

草丈は 1 番草ではタチマサリに次いで大きかった。倒伏は 1 番草でかなり発生したが、タチマサリよりも程度は少なかった。出穂時期は 1 番草ではワセユタカから 5 日、2 番草では 2 日遅かった。出穂程度はかなり多かった。

生草収量は、1、2 番草ともナガハヒカリに次いで多く、対標比 119% であった。乾物率は 17.6% で標準品種より 2% 低かった。乾物収量はタチマサリに次いで多く、対標比 109% であった。

表 1 生育特性 1

区分	品種系統名	発芽良否	発芽直後の立枯れ	定着時草勢	病害程度		虫害程度
					いもち病	冠さび病	ムギダニ
標準播き区	山系 33 号	8.0	1.0	9.0	1.0	1.0	1.0
	ワセユタカ	7.0	1.0	7.5	1.0	1.0	1.0
	ナガハヒカリ	8.0	1.0	8.8	1.0	1.0	1.0
	タチマサリ	7.3	1.0	8.0	1.0	1.0	1.0
遅播き区	山系 33 号	8.0	1.0	8.0	1.0	1.0	1.0
	ワセユタカ	6.5	1.0	6.5	1.0	1.3	1.0
	ナガハヒカリ	7.5	1.0	7.5	1.0	1.5	1.0
	タチマサリ	7.0	1.0	7.0	1.0	1.8	1.3

注 1) 発芽良否・定着時草勢：極不良 1～極良 9

2) 立枯れ・病虫害：無または軽微 1～甚 9

表 2 生育特性 2

区分	品種系統名	出穂始 (1 番草)	刈取時出穂程度		倒伏程度		草丈 (cm)	
			1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草
標準播き区	山系 3 3 号	4/ 6	8.0	7.5	3.0	1.0	133.0	79.6
	ワセユタカ	4/ 2	7.8	8.0	5.3	3.3	125.1	82.4
	ナガハヒカリ	4/18	1.5	1.8	1.3	1.0	124.9	75.5
	タチマサリ	4/ 2	8.8	8.0	2.0	1.0	134.2	74.1
遅播き区	山系 3 3 号	4/16	7.5	8.0	4.5	1.0	130.4	72.4
	ワセユタカ	4/ 7	9.0	8.8	7.5	1.8	125.5	74.2
	ナガハヒカリ	4/21	2.3	6.8	2.8	1.0	128.3	74.8
	タチマサリ	4/ 4	9.0	8.5	5.0	1.0	135.0	69.9

注 1) 出穂程度：無または極少 1～極多 9

2) 倒伏程度：無または極微 1～甚 9

表 3 収量特性

区分	品種系統名	生草収量 (kg/a)			対標比 (%)	乾物収量 (kg/a)			対標比 (%)
		1 番草	2 番草	合計		1 番草	2 番草	合計	
標準播き区	山系 3 3 号	813.9	247.7	1061.6	109	148.0	38.4	186.4	100
	ワセユタカ	747.6	228.7	976.3	100	145.1	42.1	187.1	100
	ナガハヒカリ	831.4	248.0	1079.4	111	161.6	37.4	199.0	106
	タチマサリ	693.8	187.7	881.5	90	159.0	33.5	192.5	103
遅播き区	山系 3 3 号	665.9	164.6	830.5	119	113.7	29.6	143.2	109
	ワセユタカ	546.7	154.2	700.8	100	99.0	32.1	131.1	100
	ナガハヒカリ	721.5	182.3	903.8	129	105.8	32.2	138.0	105
	タチマサリ	577.9	128.1	706.0	101	117.5	27.0	144.5	110

Ⅱ イタリアンライグラス (友系 30 号)

目 的

茨城県畜産センターで育成された、イタリアンライグラスの系統について、当地域における適応性を検討した。

試 験 方 法

1. 供試品種系統名

友系 30 号、◎タチムシャ、○ドライアン

◎は標準品種、○は比較品種

2. 試験区面積・区制 1 区面積 6m²・4区制 (4反復)

3. 栽培概要

- 1) 播種期 2006年10月 4日
- 2) 播種法 条播 (畦間30cm 播幅10cm)
- 3) 播種量 150g/a

4) 施肥量(kg/a)

基 肥	N	0.84	P ₂ O ₅	1.62	K ₂ O	0.72
追 肥	N	0.64	P ₂ O ₅	—	K ₂ O	0.64 (各刈取毎)

5) 刈取時期

1 番草	2 番草
4月20日	5月15日

結 果

1. 気象概要

イタリアンライグラス (山系33号) の項参照

2. 生育及び収量の概要

発芽及び初期草勢は、ドライアンがやや劣ったものの概ね良好であった。試験期間を通して少雨傾向が継続したが、1番草に大きな影響は無かったが2番草の生育はやや劣った。

病害は1番草に斑点病といもち病が軽微に発生し、2番草には冠サビ病の発生がみられた。虫害は1・2番草ともに発生しなかった。出穂は1番草では友系30号とタチムシャが同程度に早く、出穂の程度も1・2番草とも友系30号とタチムシャが多かった。草丈は1・2番草とも友系30号が最も大きかった。再生は全てが良好で、倒伏は1番草で軽く発生した。

乾物率は友系30号が最も高く、次いでタチムシャであった。生草収量も友系30号が最も多く、次いでタチムシャであったことから、乾物収量は友系30号が最も多かった。

育 成 系 統 の 概 評

友系33号：

発芽、初期草勢ともに良好であった。出穂は早く、その程度は標準品種のタチムシャと同様で多かった。草丈は1・2番草とも供試品種の中で最も大きく、耐倒伏性については最も高かった。2番草で供試品種の中で唯一冠さび病が軽く発生した。

生草収量は1・2番草とも供試品種の中で最も多く(対標比103.8%)、乾物率も最も高かった(対標比103.1%)ことから、乾物収量についても最も多かった。(対標比111.0%)

表1 生育特性1

品種系統名	発芽良否	発芽直後の立枯れ	定着時草勢	病害程度		
				斑点病	いもち病	冠さび病
友系30号	8.0	1.0	8.0	1.5	1.0	2.8
タチムシャ	7.5	1.0	8.0	1.0	1.3	1.0
ドライアン	7.3	1.0	7.0	1.3	1.0	1.0

注1) 発芽良否・定着時草勢：極不良1～極良9

2) 立枯れ・病虫害：無または軽微1～甚9

表 2 生育特性 2

品種系統名	出穂始 (1 番草)	刈取時出穂程度		倒伏程度		草丈 (cm)	
		1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草
友系 30 号	4/7	7.5	7.3	2.0	1.0	137.0	70.5
タチムシャ	4/6	7.8	6.8	3.8	1.0	132.5	66.1
ドライアン	4/10	3.8	5.0	2.8	1.0	116.6	59.3

注 1) 出穂程度：無または極少 1～極多 9

2) 倒伏程度：無または極微 1～甚 9

表 3 収量特性

品種系統名	生草収量 (kg/a)			対標比 (%)	乾物収量 (kg/a)			対標比 (%)
	1 番草	2 番草	合計		1 番草	2 番草	合計	
友系 30 号	712.7	196.0	908.6	104	164.5	42.3	206.8	111
タチムシャ	699.0	176.7	875.7	100	147.3	39.0	186.3	100
ドライアン	704.2	167.6	871.8	100	158.4	34.2	192.7	103

II トールフェスク (九州 14 号・15 号)

目 的

(独)九州沖縄農業研究センターで育成された、トールフェスクの系統について、当地域における適応性を検討した。

試 験 方 法

1. 供試品種系統名

九州 14 号、九州 15 号、◎ナンリョウ

◎は標準品種

2. 試験区面積・区制 1 区面積 6m²・4区制 (4反復)

3. 栽培概要

- 1) 播種期 2005年9月27日
- 2) 播種法 条播 (畦間30cm 播幅10cm)
- 3) 播種量 200g/a
- 4) 施肥量(kg/a)

基 肥	N	0.84	P ₂ O ₅	1.62	K ₂ O	0.72
追 肥	N	0.64	P ₂ O ₅	—	K ₂ O	0.64 (各刈取後)

5) 刈取時期

1 番草	2008年4月 9日	2 番草	2008年5月11日
3 番草	2008年6月21日	4 番草	2008年9月27日

結 果

1. 気象概要

イタリアンライグラスの項参照

2. 生育概要及び収量特性

1 番草の生育は概ね良好で、出穂始は昨年より早かった。虫害は、1 と 4 番草にアブラムシが大量発生した。病害は、2・3・4 番草に冠さび病が、4 番草には、いもち病の発生もみられた。倒伏は 1 番草には無かったが、2・3・4 番草にかなり発生した。出穂は、3 番草以降では刈取時にほとんど見られなかった。草丈は、1 番草ではナンリョウが最も小さく、2 番草では最も大きかった。3・4 番草では大きな差は無かった。昨年夏枯れ残った株の再生は、各番草とも良好であった。

生草収量は、各品種とも 1 番草の収量が最も多く、2 番草が最も少なかった。乾物率は 1～3 番草までに比べ各品種とも 4 番草で高かった。乾物収量は 1 と 4 番草の収量が多く 2 と 3 番草は半分程度に留まった。

育 成 系 統 の 概 評

九州 1 4 号：

1 番草の出穂始は標準品種より 10 日早かった。1 番草の出穂程度は供試品種中最も多かったが、反対に 2 番草では最も少なかった。3 と 4 番草に冠さび病やいもち病の発生が見られたが、標準品種に比べるとかなり軽微であった。倒伏は 2～4 番草でかなり発生したが標準品種に比べ少なかった。再生草勢は各番草とも標準品種と同程度であった。草丈は 1 番草では最も大きく、2 番草以降では最も小さかった。

生草収量は 2 番草で少なかったが、1 と 4 番草が多かったことから合計では標準品種と同程度であった。乾物収量についても同様の結果となった。

九州 1 5 号：

1 4 号と同様に 1 番草の出穂始は標準品種より 10 日早かった。1・2 番草とも出穂程度は多かった。3 と 4 番草に冠さび病やいもち病の発生が見られたが、標準品種に比べるとかなり軽微であった。倒伏は 2～4 番草でかなり発生したが標準品種に比べ少なかった。再生草勢は各番草とも標準品種と同程度であった。草丈は標準品種に比べ、1 番草では大きく、2 番草ではかなり小さかった。

生草収量は 1・2 番草で少なかったことで、供試中最も少なかった。乾物率は同程度で、乾物収量についても同様の結果となった。

表 1 生育特性 1

品種系統名	出穂始	越夏性	秋の被度	秋の草勢
九州 1 4 号	3/26	7.5	48.8	7.3
九州 1 5 号	3/26	7.3	45.3	7.0
ナンリョウ	4/5	7.0	41.3	6.5

注 1) 越夏性・秋の草勢：極不良 1～極良 9

2) 秋の被度：0～100%

平成 19 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

表 2 生育特性 2

番草	品種系統名	出穂程度	倒伏程度	草丈 (cm)	再生草勢	病害		虫害
						冠さび病	いもち病	アブラムシ
1	九州 1 4 号	6.0	1.0	80.1	7.8	1.0	1.0	5.5
	九州 1 5 号	5.5	1.0	77.9	7.5	1.0	1.0	6.5
	ナンリョウ	2.0	1.0	71.5	7.8	1.0	1.0	6.0
2	九州 1 4 号	4.8	1.0	65.5	8.0	1.0	1.0	1.0
	九州 1 5 号	7.3	1.0	66.6	7.3	1.0	1.0	1.0
	ナンリョウ	7.5	2.0	80.4	7.0	1.3	1.0	1.0
3	九州 1 4 号	1.0	1.8	59.9	7.0	2.8	1.0	1.0
	九州 1 5 号	1.0	1.5	60.6	7.0	2.8	1.0	1.0
	ナンリョウ	1.0	2.8	59.6	7.3	6.0	1.0	1.0
4	九州 1 4 号	1.0	2.3	68.9	7.5	2.0	2.0	2.8
	九州 1 5 号	1.0	2.5	70.3	7.3	2.5	2.5	3.0
	ナンリョウ	1.0	3.0	68.8	7.0	3.0	2.8	3.0

注 1) 出穂程度：無または極少 1～極多 9、倒伏程度：無または極微 1～甚 9

再生草勢：極不良 1～極良 9

2) 病虫害被害：無または極微 1～甚 9

表 3 収量特性

番草	品種系統名	生草収量 (kg/a)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/a)
1	九州 1 4 号	276.0	22.4	61.6
	九州 1 5 号	250.4	22.7	56.8
	ナンリョウ	265.2	22.4	59.4
2	九州 1 4 号	127.0	23.2	29.4
	九州 1 5 号	127.7	23.4	29.9
	ナンリョウ	161.6	23.1	37.6
3	九州 1 4 号	170.4	22.8	38.8
	九州 1 5 号	172.5	23.2	40.0
	ナンリョウ	182.9	22.1	40.4
4	九州 1 4 号	199.2	34.7	68.9
	九州 1 5 号	174.2	33.3	57.9
	ナンリョウ	167.5	35.5	59.2
合計・平均	九州 1 4 号	772.6	25.7	198.7
	九州 1 5 号	724.8	25.5	184.5
	ナンリョウ	777.1	25.3	196.5

Ⅲ ホールクroppサイレージ用ソルガム

目 的

長野県畜産試験場で育成されたホールクroppサイレージ用ソルガムの各系統について当地域における適応性を検討した。

試 験 方 法

1. 供試品種系統名

ソルゴー型ソルガム：東山交 3 3 号 東山交 3 4 号 ◎葉月 ○スズホ

スーダン型ソルガム：東山交 3 1 号 ◎BMR スィート ○グリーンA

◎は標準品種、○は比較品種

2. 試験区面積・区制 1区 8m²・3区制 (3反復)

3. 栽培概要

1) 播種期 2008年6月5日

2) 播種法 点播 (条間80cm 株間10cm) 3粒点播 発芽後間引1本立

3) 施肥量 (kg/a)

基 肥	N	0.84	P ₂ O ₅	1.48	K ₂ O	0.72
早期追肥	N	0.48	P ₂ O ₅	—	K ₂ O	0.48

4) 刈取時期

ソルゴー型 8月14日

スーダン型 1 番草 7月31日 2 番草 9月21日

5) 管理その他

除草剤散布 6月5日 間引き・補植 7月5日

中耕・培土 6月5日

殺虫剤散布 6月5日

結 果

1. 気象概要

イタリアンライグラスの項参照

2. 生育及び収量概要

発芽及び初期生育は兼用型では全ての供試品種で良好であった。スーダン型では比較品種の「グリーンA」が不良であった他は良好であった。スーダン型の再生は、少雨の影響で、遅れるとともに不良となった。出穂は、兼用型では比較品種の「スズホ」が最も早く、「東山交 3 3 号」が最も遅かった。スーダン型では比較品種の「グリーンA」が、最も早かった。倒伏は軽微であった。兼用型に虫害によるものが軽く発生した。虫害は兼用型、スーダン型ともヨトウムシで、軽微に発生した。病害は紫斑点病が発生した。スーダン型の 2 番草に多かった。稈長は、兼用型「東山交 3 4 号」が最も長く、穂長も同様であった。スーダン型では 1・2 番草とも「グリーンA」が最長であった。

収量は、兼用型では生草収量で「東山交 3 3 号」が、乾物収量では比較品種の「スズホ」が最も多かった。スーダン型では 1 番草で「東山交 3 1 号」、2 番草で「グリーンA」が生草、乾物収量とも最も多かった。合計では「東山交 3 1 号」が多収であった。

育成系統の概評

東山交 3 1 号：

発芽及び初期生育は良好であった。出穂期は標準品種の「BMR」と同時期で比較品種よりも遅かった。倒伏は 1、2 番草ともほとんど発生しなかった。病害は紫斑点病が 2 番草で軽微に発生した。1、2 番草ともヨトウムシの被害がかなりあった。草丈は 1、2 番草とも小さく、稈径は細かった。

1 番草では、生草、乾物収量とも最も多く、2 番草では両方とも最も少なかった。全体の合計では最も多かった。

東山交 3 3 号：

発芽及び初期生育は良好であった。出穂期は標準品種の「葉月」より 1 日遅かった。倒伏は供試品種中で最も多かったが、比較品種と同程度であった。ヨトウムシの被害が軽く発生した。稈長は標準品種をやや下回ったが、穂長は長く、稈径は最も太かった。

生草収量は供試中最も多かったが、乾物率が最も低かったことから、乾物収量は比較品種の「スズホ」に次いで 2 番目であった。

東山交 3 4 号：

発芽及び初期生育は良好であった。出穂期は標準品種の「葉月」とほぼ同じであった。倒伏は供試品種中で最も少なかった。紫斑点病やヨトウムシの被害はもっとも軽微であった。稈長及び穂長は供試中最も大きく、標準品種を上回った。

生草収量は標準品種と同程度であったが、乾物率が高かったことから乾物収量は標準品種を上回った。

表 1 生育特性 1

区分	品種系統名	発芽良否	初期生育	出穂期	収穫時ステージ	倒伏 (%)	病害 紫斑点病	虫害
								ヨトウムシ
ソルゴー型	東山交 3 3 号	8.0	7.0	7/28	糊熟初期	4.7	1.0	1.7
	東山交 3 4 号	7.7	7.7	7/28	糊熟初期	1.7	1.0	1.7
	葉月	8.0	7.0	7/27	糊熟中期	2.3	1.3	2.0
	スズホ	8.0	7.0	7/25	糊熟中期	4.7	1.0	2.3
スーダン型	東山交 3 1 号	8.3	8.0	—	出穂期	1.0	2.0	2.3
	BMR スイート	7.3	7.0	—	出穂期	2.0	2.0	2.3
	グリーンA	5.3	6.3	7/29	出穂期	2.0	1.3	1.7

注 1) 発芽良否・初期生育：極不良 1～極良 9

2) 病虫害：無または極微 1～甚 9

表 2 生育特性 2

区分	品種系統名	草丈・稈長 (cm)		稈径 (mm)		茎数 (本/㎡)	
		1 番草	2 番草	1 番草	2 番草	1 番草	2 番草
ソルゴー型	東山交 3 3 号	168	—	16	—	10	—
	東山交 3 4 号	173	—	15	—	11	—
	葉月	171	—	14	—	11	—
	スズホ	164	—	14	—	13	—
スーダン型	東山交 3 1 号	209	125	11	7	48	51
	BMR スイート	222	155	11	9	29	34
	グリーンA	256	167	13	9	19	32

注 1) 草丈・稈長：ソルゴー型は稈長、スーダン型は草丈を記載

平成 19 年度飼料作物、牧草類系統適応性検定試験

表 3 収量特性 1

注 1) 乾物穂重割合：乾物穂重／乾物総重×100

区分	品種系統名	生草収量 (kg/a)			対標比 (%)	乾物率 (%)			乾物収量 (kg/a)			対標比 (%)	乾物穂重割合 (%)
		茎葉重	穂重	総重		茎葉重	穂重	総重	茎葉重	穂重	総重		
ソルゴー型	東山交 3 3 号	185.4	39.7	225.1	111.8	28.8	44.0	31.4	53.3	17.4	70.7	107.7	24.7
	東山交 3 4 号	159.9	42.7	202.6	100.6	31.0	45.0	33.9	49.5	19.2	68.7	104.6	27.9
	葉 月	163.8	37.6	201.3	100.0	29.5	46.7	32.7	48.2	17.5	65.7	100.0	26.6
	スズホ	177.7	34.9	212.6	105.6	32.8	49.8	35.7	58.3	17.3	75.7	115.2	22.9

表 4 収量特性 2

区分	品種系統名	1 番草			2 番草			年間合計				
		生草収量 (kg/a)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/a)	生草収量 (kg/a)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/a)	生草収量 (kg/a)	対標比 (%)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/a)	対標比 (%)
スーダン型	東山交 3 1 号	436.3	20.3	88.7	109.8	22.7	24.9	546.0	103.1	20.8	113.6	108.3
	BMR スイート	387.1	18.7	72.5	142.5	22.7	32.4	529.6	100.0	19.8	104.9	100.0
	グリーンA	335.7	18.5	62.2	150.0	24.5	36.8	485.7	91.7	20.4	99.0	94.4